

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属

獣医学科

職階

講師

氏名

峰重隆幸

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

私の教育の責任範囲は、獣医学科における病理学の教育全般である。

専門は獣医病理学だが、臨床医としての経験を活かし、学生が実践的な診断スキルを習得できるよう指導している。

国家試験に直結する知識を体系的に指導し、病理診断を通じた臨床能力の向上を図る。

また、実習を通じた症例ベースの教育や研究室指導を行い、学生の診断力と問題解決能力を養うことを目指す。

さらに、ICTを活用した学習支援を実施し、教育の質向上に努める。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医病理学実習I	獣医学科	必修	4	134
獣医病理学実習II	獣医学科	必修	4	132
基礎・小動物獣医総合臨床II	獣医学科	必修	4	133
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	153
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	153
総合獣医学	獣医学科	必修	6	132

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

私の教育理念は「楽しく学ぶこと」「国家試験に合格させること」「病理と臨床の橋渡しをすること」の3点である。

理念① 楽しく学ぶこと

獣医学は習得すべき知識が膨大であり、学習の継続にはモチベーションが重要である。楽しく学ぶ環境を提供することで、学生の主体性を引き出し、知識の定着を促進する。興味を持ち、能動的に学ぶ姿勢が獣医師としての成長に直結すると考えている。

理念② 国家試験合格を支援すること

獣医学科の学生にとって、国家試験はキャリアの第一関門であり、これを突破することが最優先となる。単なる試験対策にとどまらず、合格後に臨床現場で即戦力となれる教育を提供することが重要である。

理念③ 病理と臨床の橋渡しをすること

病理学は診断の根幹を担うが、学生にとって臨床との関連が見えにくいことが多い。実際の症例を基に、病理学が診断や治療の判断にどのように貢献するのかを示し、臨床医が病理を活用できるよう指導する。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

代替臓器を用いた学生実習：

豚の皮膚を購入し、犬猫の皮膚検査のトレーニングツールとして活用する実習を実施。これにより、検査手技の習得を効果的に促進

研究室教育の実践的アプローチ：

実際の症例の情報を匿名化し、臨床病理・病理学・画像診断などの多角的な視点から診断を行う「伴侶動物診断ゼミ」を実施。

最終的に病理組織で診断を確定することで、より実践的なスキルを習得できるようにしている。この手法は学生から高評価を得ている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

ディスカッション顕微鏡を活用し、学生が互いに所見を議論する機会を設けている。質問を投げかけながら進めることで、学生のアウトプットを促し、知識の定着を図っている。

(2) ICTの教育活用

有

国家試験対策アプリを開発し、6年生に公開。頻出テーマの学習を支援した。皮膚検査の手技動画を作成し、実習外でも反復学習できる環境を整備した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

これまで、臨床診断や病理診断が個別に行われることが多かったが、両者を連携させた教育手法を導入。臨床データと病理所見を統合的に考察する訓練を通じて、学生が総合的な診断能力を養えるようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

A

定期的にクイズ形式の理解度チェックを実施し、フィードバックを行う。学生の質問内容を分析し、授業の進行を調整することで、難易度の最適化を図っている。

（３）学生の自学自習を促す工夫

A

開発したアプリケーションは、国家試験で頻出のテーマをカバーしており、学習効果の向上に寄与すると考えている。

皮膚検査動画の活用により、実習外でも繰り返し学べる環境を整備した。

（４）学生とのコミュニケーション

A

メールでの質問受付を導入し、より柔軟な対応を可能にしている。

（５）双方向授業への工夫

B

ディスカッション顕微鏡を活用し、学生同士で所見を議論。発表とフィードバックを行う。症例ベースの討論を実施し、臨床データ・病理所見をもとに診断プロセスを考えさせる。研究室ゼミでは、学生が実際の症例をプレゼンし、質疑応答を通じて理解を深めている。今後はより学生からの発案を伸ばす環境を整備したい。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

過去問の解析を行い、頻出テーマの重点講義を実施。

今後、自分の指導が適切であったか、検討する必要がある。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学修成果の向上に資するツール（アプリ・動画）を提供し、国家試験の合格率向上を目指した。

研究室教育では、臨床で即戦力となる診断能力の向上を重視し、実際の症例を活用した実践的な学びを提供した。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

着任1年目のため、まだ自身に対するアンケート結果を受け取っていない。今後、アンケート結果をもとに授業内容や指導方法の改善に取り組む予定。

6. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD研修には積極的に参加し、教育手法の向上に努めている。

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

短期目標（1年以内）：

授業評価アンケートを活用し、授業改善を実施。

アクティブラーニングをさらに発展させ、学生の能動的な学習環境を強化。

臨床と病理の連携を強化し、統合的な診断教育を推進。

長期目標（5年以内）：

国家試験の合格率向上を支援し、臨床現場で即戦力となる獣医師を育成。単なる試験対策にとどまらず、診断能力や実践的なスキルを強化し、臨床の現場で即応できる教育を目指す。これにより、動物医療の質を向上させ、より高度な診断・治療を提供できる獣医師を育成することを目指す。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバス、授業スライド、配布資料、国家試験対策アプリ・学習支援動画